

学習会 「聾史研究グループとは何か」

聾史研究グループの必要性や仲間作りについてを学ぶ

講師 新谷嘉浩（近畿聾史研究グループ代表）

初めまして、新谷嘉浩（しんたによしひろ）です。久しぶり会った人も数人います。

■講演依頼のきっかけ

正直に言うと今まで数回講師を依頼されたことがあります。ほとんどテーマは聾史関係です。今回は「聾史研究グループとは何か？」というテーマで依頼されたのは初めてです。依頼された理由は、現在、全国で聾史研究会が数件ありますが、まだ足りない。もっと増えてほしい。大会に参加された方の中、やるか、やらないかと迷っている人がおられるので、迷っている方をやる気にさせるように話してほしいとの事でした。

そこで、私たちの活動しているグループ活動を紹介しますので、参考になれば幸いです。

■現在の聾史関連団体

現在、全国は近畿研究グループを除いて10か所があります。

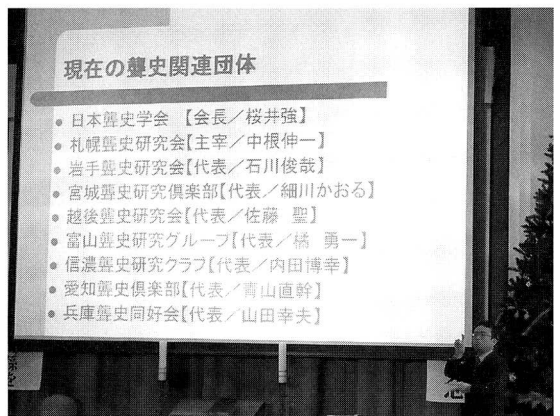
- 日本聾史学会【会長／桜井強】
- 札幌聾史研究会【主宰／中根伸一】
- 岩手聾史研究会【代表／石川俊哉】
- 宮城聾史研究倶楽部【代表／細川かおる】
- 越後聾史研究会【代表／佐藤 聖】
- 富山聾史研究グループ【代表／橘 勇一】
- 信濃聾史研究クラブ【代表／内田博幸】
- 愛知聾史倶楽部【代表／青山直幹】
- 兵庫聾史同好会【代表／山田幸夫】

（平成22年11月現在）

地図を見て何か感じたことがありますか？九州、四国、中国はありません。東京もありません。前は、広島は前にあったのですが、つぶれたようで、また復活するように頑張ってください。

■近畿聾史研究グループの活動内容

まずは自分の活動している近畿聾史研究グループ（以下、近聾史研と略）の内容を簡単に説明したいと思います。創設のきっかけは1997（平成9）年11月17日、大阪市難波にある平野屋という喫茶店で、聾史に興味をもつ芳本さんと出会っ



て色々とお話しました。

当時、私は27歳で、まったく活動など興味持たなくて経験が何もなかった時でした。芳本さんは大阪パントタイムグループの代表を務めている

ことから、部下育成などリーダー経験もお持ちで活動経験も豊富な方で、聾史について色々話し合っているうちに創設してはどうかという話が進められ、創設を決意しました。

あの時は、創設するにあたって事業計画などの話はなかったのです。偶然出会って、話しあってやる、やろうと軽い気持ちで創設したわけで、意図的ではなく、偶然の一致でした。

そして今、毎月1回、大阪梅田喫茶店で会議を開催しています。去年8月で会議回数は140回目になりました。自分で驚くぐらい、近聾史研のメンバーたちは、本当に積極的に参加しております。

会議の内容はほとんど、近聾史研の運営、今後の企画について講師は誰に依頼したらいいか、個人研究発表は誰がするか、予算は？という内容で話し合っています。

または、個人で調査したことを報告・討論したり、聾史に関する情報・書籍情報など情報交換しています。参加者は会員のみ参加です。喫茶店は狭いので、一般人は参加できません。そこで、私が調査した中から一つ紹介したいと思います。

大阪毎日新聞「唾の頓死」という記事ですが、私の職場から近くにある大阪府立中之島図書館で、昔の古い新聞を保存してあるマイクロフィルムの中から見つけました。

この記事を読み合うポイントにして自分に合ったいくつかのポイントをあけて会議に持ち出して皆さんに読んでいただきます。

読んで感じたこと、記事に関する疑問、意見など、討論します。「唾の頓死」新聞記事の内容をまとめて説明します。

『大阪の難波千日前で ろう夫婦が理容業を営んでいました。二人のことは周りでは有名でした。

男性は上田万次郎と言います。女性は赤松です。二人は法律上の夫婦ではなく内縁関係です。

上田さんは障害者。記事では“カタワ”と書いてありますが、今は“障害者”と言いますが、昔は“カタワ”という言葉が使われていました。

上田さんは毎日楽しみがなく暗くて酒ばかり飲んでいたので体を壊した。酒断ちで療養していたが快方に向かったため、再び飲み始めた。昨日また酒を十分飲んで遊びに出かけ、日本橋で俄かに脳溢血を起こし、そのまま倒れて絶命した。



見かけた人が女房に知らせて、現場にかけつけた女房との二人の会話は口が利かず、手真似で愁嘆場を演じた。よその見る目も哀れなり』という内容ですが、現場で見た記者が書いたものです。

で、このポイントは何と思いますか。私から見たポイントは三つあります。

①ろう夫婦について

新聞ではろう夫婦と書いてありますが、実際、二人は法律上の夫婦ではなく内縁関係です。周りの人から二人は夫婦と思っています。夫婦と思った方がわかりやすいと思う人がいます。なぜでしょうか。

聾者同士として日本で初めて結婚された吉川金造氏は、明治34年4月15日に結婚しました。その時、夫は31歳、妻は27歳です。

新聞に載ってある上田夫妻は、明治35年12月5日、上田37歳、内縁の赤松36歳です。吉川夫婦の場合は、ちゃんと聾学校に入学・卒業したろう者同士として初めて結婚された夫婦です。

一方、上田夫婦の場合は学校教育を受けていない無就学同士で結婚したのか、それとも明治11年日本で初めての聾学校、「京都盲唾院」、二番目に創立した「大阪模範盲唾学校」が6ヶ月後、つぶれて私立盲唾学校に改称された時、その学校で就学した学生か、色々と考えられます。

次に上田夫婦の年齢から考えると、吉川金造氏よりも早く結婚したのではないかと考えられます。

②理髪床

上田夫妻は理髪床を勤めていると書いてありますが、実際に勤めていたのかどうか？

今、全国でいくつか聾学校の理容科がありますね。日本で初めて設置したのはいつですか？

私は理容科の歴史をよく知らないのですが、インターネットで調べてみたら、熊本聾学校が第一号でした。昭和14年に熊本聾学校で初めて理容師養成制度がつけられました。

新聞の記事は明治時代の話で、明治から昭和までの間が長くあります。理容業はどんな内容だったのか？調査する必要があります。

③大酒

楽しみがなく暗く飲んでいると新聞に書いてありますが、実際はどうでしょうか？友達と一緒に飲んでいるかもしれない。それとも一人ぼっちで飲んでいるかも。はっきり書いてありません。というような色々ポイントがあげられます。

記事を読んで、ありのままに話すではなく、いくつかポイントをあげて会議に持ち出して皆さんと一緒に考えながら話し合う。お互いに調査したい気持ちになります。調査意欲を沸かせるための目的です。

■講演会&勉強会

年二回開催しています。講演会は聾史関係のテーマで講師を依頼したり、会員の個人研究の発表も一人ひとりやって頂いております。

毎月一回で喫茶店に会議を開催していますが、喫茶店の閉店時間が過ぎて、ほとんど話が途中で終わって、次回に持ち込むことが多いので、年二回は一日ゆっくり話し合う場を設けました。

■聾史探訪ツアー

●新潟ツアー／横尾義智記念館&前島記念館
(2001年6月8日～10日)

●奈良聾史探検ツアー／～建王墓3ヶ所・谷三山墓及び生家～(2003年6月1日)

●堺市立聾哑学校の跡地訪問(2004年5月22日)

●山口・広島ツアー(2005年7月30日～8月1日)

●愛知聾史探訪ツアー(2007年7月28日)

●刀工聾長綱探訪ツアー(2008年7月19日)

刀工聾長綱探訪ツアーの時は長尾さん、愛知聾史探訪ツアーは愛知の青山さん、中根さんに現場に案内していただきました。色々とお世話になり、ありがとうございました。

ここではツアーの内容を詳しく話しませんが、ただ一つ忘れられないことがあります。山口、広島ツアーで広島の方が講師依頼など色々手配、すごく献身的に世話をしてくれました。今でも忘れられないです。ありがとうございました。

■聾史月報

年3回発行を目標にして発行しています。今は何かと多忙で、発行が遅れていますが、現在第54号まで発行しています。

聾史月報は記録を残すために調査した資料などを掲載しています。貴重な資料です。

■「聾史レポート集」第1集

「聾史レポート集」第1集は論文じゃなくてレポートで、グループ設立から発行した月報54号までの中から、公開できるレポートを選んで載せました。発行するまで編集、校正などが大変でしたが、やっと本ができたこととても喜んでます。聾史レポート集」第1集の内容は…。

①「聾井戸地蔵尊」を調査してー「聾」の字は生きている。江戸時代から堺にあった「聾井戸地蔵」や「つんぼ井戸橋」の調査報告

②その他

「つんぼ」はいつから呼ばれていたのか？

「江戸時代の聾哑者が捕まったら、どんな罪を受けるのか？」

「江戸時代の学者は聾哑者をどう見ていたのか？」

レポートに書いてあります。興味ありましたら、是非買って読んでください。

■共同調査

近聾史研が共同調査を実施しているテーマは以下の通りです。

①「浜松聾哑者殺人事件」について

7～8年前、日本聾史学会の分科会をきっかけに、この事件について話題が出ました。その後、事件の背景、人の考え方など、色々詳しく調べなければならぬとメンバーの意見があったので、皆さんと一緒に図書館へ行って資料を調べたり、共同調査しました。資料は7年前のデータで古いです。今回、桜井会長がレポート発表で発表されました。

②「断種法と聾者」について

断種法ご存知ですか。昔は聾者同士が結婚した時、障害者の遺伝を断つ為に親に強制的に不妊手術されたり、何かと盲腸の手術をすると偽られ、病院で不妊手術を受けたり、子どもを産めないご夫婦が多くおられました。この断種法について調査したけれど、途中で頓挫してしまいました。調査を再開したいと思います。

■近聾史研グループにおける評価点と課題点

近聾史研として良い評価と悪いところを話した

いと思います。

〈評価点〉

① 聾史に関心ある人々が自然に集う

情報交換の目的で参加する人がいますが、近聾史研は研究調査の目的で実施しているので、聾史を勉強したい方は積極的に参加して頂いています。

② 相互協力の精神と心が折れそうになった時の励まし

実は、第5回日本聾史学会大阪大会が終わった後、メンバーの人数が急激に減って残り4人になりました。その時、近聾史研を解散しようと真面目に考えた時がありました。

その時、二人の会員が解散しないで続けてほしいと強く説得されて「興味のある人だけ集まればいい。私は近聾史研に参加するのはとても楽しみにしている。人数が少なくてもいい」と励まされてとてもうれしかったです。

二人は誰かというら芳本光司さんと小枝豊さん。二人ともろう協会の活動経験が豊富な方で、私の方も色々と支えられて、なんとか続けて活動出来ました。とてもうれしかったです。

③ 団結力の強さ

関西はお互いに協力し合うという基本的関係に強いというか、地域性が出ていると思います。

■ 課題点

① 自覚がない会員

・ 会議に参加して傍観するだけで帰る人がいます。何のために会議に参加するのか、問いたい。目的意識を持たないと困ります。

・ コレクション家

「聾」という文字があるだけ本を買う。実際に読まずに本棚におき、本棚の飾りにする。聾関係の本を沢山集めて、自慢する人がいます。このタイプは、研究を履き間違えているので、私はあまり好きではありません。

② 文章が書けない

・ 聾者だから…と諦め

個人によって文章が書けない人がいるので仕方ないと思います。しかし、「聾者だから」書けなくて仕方ないという人がいます。失礼だけど、僕の妻は文字が上手く書けません。全日本ろうあ連盟のバイトに入った時、事務の依頼が多いときは、かなり苦勞しています。原稿を上司に出すと赤ペンで校正され、真っ赤になって返却された事が何

度もありました。繰り返し書き直しています。

北海道の中根伸一さんもそうでした。中根伸一さんは若い時に経験されて、うまく書けるようにすごく努力しておられました。聾学校卒業だから文字が書けないので仕方ないではなくて、文章が書けるように努力が必要です。要するに本人の気持ちの問題なのです。

・ 書き起こしは重労働

聾者の講演の書き起こし作業はすごく大変です。盲者の場合、テープに録音された音声聞いた言葉をそのまま書き起こすので比較的楽です。しかも、京都ライトハウスは録音を文字化する機器があるそうです。

聾者の場合はこのような設備はありません。手話が日本語とは異なる文法構造をもつ独自の言語なので、手話を読み取って日本語に置き換える事はすごく難しいです。書き起こし作業は嫌という会員がいます。気持ちはわかります。

僕は原稿の書き起こし作業をしたことがあります。特にろう老人の手話は難しく文字にするのに時間かかります。書き起こした原稿を本人に会って手話で確認していただき、何回も繰り返しながら修正しました。

一つ、びっくりした事があります。

あるろう老人は色々な所へ講師に出かけておられる方です。その方の講演を文字化した原稿を渡した時、すごく喜んでくれました。今まで講演記録をビデオカメラに収録する事が多く、文字化した資料をもらうことは生涯初めてだそうです。出来上がるまで、すごく大変だったけれど、やり遂げた達成感と満足感を味わうことができました。

■ 研究という意味

大会に参加された皆さん、改めて研究は何かとよく考えなければならぬと思います。簡単に本を集めて、コレクションだけで終わっていいのでしょうか？

調査した資料を集めて読み、まとめて書くのはレポートです。そのあと、よく調べて事実や道理を深く知ることが研究と言います。研究方法を学ぶ必要があります。しかし、近聾史研の会員は私を含めてまだまだ未熟者です。

■ 私が考える未来の聾史研究

30年から40年先のことを考えると、今私は来年40歳になりますが、30年後にすると70歳くらい。この

時はどうなるか、考えなければならぬと思います。

研究調査を活動せず、情報交換のみ集うグループの場合、人材が育ちません。その時、若手の研究者が不在の場合、解散する恐れがあります。情報交換だけで終わるのか、研究調査の目的で活動していくか、どちらかを選択し活動していく必要があります。現在、近聾史研は岐路に立っています。

・関西地域に聾史関連団体の結成？

京都、奈良、兵庫など支部ではなく、各団体は独立した団体ができるでしょう。当然、各団体が集まって研究発表する場が必要になります。もしかしたら「近聾史研」が「近畿聾史学会」に変わるかもしれません。今すぐ変えるわけではなく、30年から40年後の想像です。このためには若者研究者を育成する必要があります。

彼らの育成にも結びつくものに何かを残すと、次世代を託す若者にはっきりと引き継ぐことができます。近聾史研がしたことは「聾史レポート集」第1集の発行です。次世代に引き継ぐための第一歩です。

次の計画は

①『ベルと日本の聾教育 来日講演記録より』

(仮称)

ベルは聾教育や聾組織の必要性というテーマで、各地の東京、京都、長崎で講演されました。東京での講演記録は図書館に、京都のは盲学校に保存してあります。長崎は原爆により資料は残ってないかもしれませんが、探してみます。その講演会でどのような影響があったか、詳しくは報告されていませんので、皆さん知る必要があります。調べてそれぞれの講演記録をまとめて本を作りたいと思っています。

②『新聞記事から見た聾啞者』(仮称)

明治維新から大正までの新聞に案外と聾関係の



参加者の質問に対して回答する新谷嘉浩氏。

記事を掲載されてます。全国から集めるのは難しいので関西範囲で記事を集めてまとめて本を作りたいです。

③『聾史レポート集 第2集』

三年後位発行できるように作りしたいと思います。

・会員のレベルアップ

会員の知識を高める必要があります。そのため聾史レポート提出するように心がける。どうしても書けない場合、人に頼んで手話で話して書いてもらう方法でいいと思います。

・聴覚障害者協会機関紙に「聾史」を掲載する。

聾史をより多くの皆さまに知っていただくため、機関紙に「聾史」を載せて、PRや普及活動しています。

・京都市ろうあニュース「京の聾史探訪」

2008年6月号から連載中で「京の聾史探訪」を執筆しています。今年12月号で29回目になります。すごく大変けども、50回目まで書くように頑張りたいと思います。興味ありましたら京都府聴覚障害者協会に購読を申し込みください。年間1500円です。安いのでお勧めです。

■最後にまとめ

・聾史研究グループのポイントについて

私の今までの経験、または芳本さんと話しあった事を話したいと思います。

●結成は2人から

研究グループは二名以上結成できます。

①団体活動に経験がある方。

②聾史研究に熱心(足で調査する)

最近インターネットで調べられますが、やはり、自分の足で図書館へ行って調べたり現地へ、人に会って話を聞くこと。本当の研究と言います。

このようなタイプ①と②一緒にすればグループ結成できます。そして、グループ設立したあと、会員が入ってきます。

●知識の共有化

会員がお互いの知識を共有し合えるように、会議中は私語禁止で、皆さんと一緒に資料を読んで話し合う。“見る”“知る”“調べる”事が大切です。

最終的には本人の気持ち次第で、やりたい気持ちがあれば設立できます。活動には当然波があり、落ち込んだとき、お互い励まし合える仲間が必要です。

お互い励まし合える仲間がいれば、お互いに成長できるし、本当のグループだと思います。

以上、ご静聴ありがとうございました。

【 参考資料 】

聾史研究グループとは何か？

近畿聾史研究グループ

代表 新谷嘉浩

はじめに

- 「聾史研究グループとは何か？」

- 講演依頼のきっかけ

- 内容

現在の聾史関連団体

近聾史研の活動内容

グループにおける評価点と課題点

私が考える将来の聾史研究

聾史研究グループのポイント

現在の聾史関連団体

- 日本聾史学会 【会長／桜井強】
- 札幌聾史研究会【主宰／中根伸一】
- 岩手聾史研究会【代表／石川俊哉】
- 宮城聾史研究倶楽部【代表／細川かおる】
- 越後聾史研究会【代表／佐藤 聖】
- 富山聾史研究グループ【代表／橘 勇一】
- 信濃聾史研究クラブ【代表／内田博幸】
- 愛知聾史倶楽部【代表／青山直幹】
- 兵庫聾史同好会【代表／山田幸夫】



近畿聾史研究グループの活動報告

- 創設のきっかけ
- 近聾史研の活動
 - ①定例会議
 - ②講演会&勉強会
 - ③聾史探訪ツアー
 - ④会報「聾歴史月報」
 - ⑤書籍「聾史レポート集」
 - ⑥共同調査



創設のきっかけ

1997(平成9)年11月17日

第1回日本聾史学会開催の1年前に
グループを結成

個人での聾史研究や調査に限界

芳本・新谷が大阪難波で話し合い

グループの必要性を感じ、結成を決意

→意図的ではなく、偶然の一致

① 定例会議

- 毎月1回、大阪梅田喫茶店で開催
- 近聾史研の運営
- 調査報告と討論
- 聾史に関する情報交換・書籍情報など
- 会員のみ参加



調査報告と討論

- 新聞記事「啞の頓死」から
- 大阪毎日新聞
(明治35年12月5日)
- ポイントをあげる
 - ① 啞の夫婦
 - ② 理髮床
 - ③ 大酒
 → 疑問やポイントをあげて、色々意見を討論し、調査意欲を沸かせる



② 講演会 & 勉強会

- 年2回開催。
- 聾史に関わる人物の講演会
- 個人研究の発表会
- 聾史に関する情報交換や討論、話し合い

- 参加条件：
会員と購読会員のみ
一般参加は不可



③ 聾史ツアー

- 新潟ツアー 横尾義智記念館&前島記念館
(2001年6月8日～10日)
- 奈良聾史探検ツアー ～建王墓3ヶ所・谷三山墓及び生家～(2003年6月1日)
- 堺市立聾啞学校の跡地訪問(2004年5月22日)
- 山口・広島ツアー(2005年7月30日～8月1日)
- 愛知聾史探訪ツアー(2007年7月28日)
- 刀工聾長綱探訪ツアー(2008年7月19日)

④ 聾歴史月報



第51号

(2009年5月29日発行)



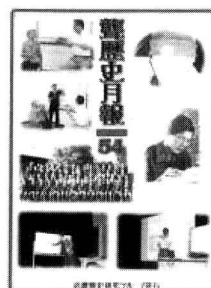
第52号

(2009年9月25日発行)



第53号

(2010年1月29日発行)



第54号

(2010年5月28日発行)

- 年3回発行を目標(現在、第54号まで発行)

⑤ 聾史レポート集 第1集



表表紙



裏表紙

近畿聾史研究グループ
Kinki Research Group on Deaf History, Japan

- 創刊号から第54号までレポートを五本選考して、まとめた本。
- 近聾史研として初めて書籍の発刊。
- 11月27日(土)日本聾史学会滋賀大会から販売スタート。
- 1部700円

「聾史レポート集」第1集

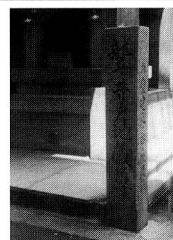
- 「聾井戸地蔵尊」を調査して
-「聾」の字は生きている
江戸時代から堺にあった「聾井戸地蔵」や
「つんぼ井戸橋」の調査報告

- その他

"「つんぼ」はいつから呼ばれていたのか？"

"江戸時代の聾啞者が捕まったら、どんな罪を受けるのか？"

"江戸時代の学者は聾啞者をどう見ていたのか？"



⑥ 共同調査

- 「浜松聾啞者殺人事件」
- 「断種法と聾者」

7, 8年前、近聾史研のメンバーたちが共同で聞き取り調査や図書館で資料調査を行った。

今後はグループテーマを決め、共同で調査することを復活したい。

グループにおける評価点と課題点 近聾史研の例

評価点

- 聾史に関心ある人々が集う
 - ①個人の目的を問わない場合、自然と集う。
 - ②情報交換の目的 ⇒これが裏目となり欠点。
- 相互協力の精神
 - ①心が折れそうになった時の励まし
 - ②二人の存在が近聾史研を少しずつ強化
- 団結力の強さ
 - ⇒地域性が出ている

課題点

- 自覚がない会員
 - ①傍観者・・・会議に参加する意味は？
 - ②コレクション・・・本集め
- 文章が書けない
 - ①“聾者だから・・・”と諦め
 - ②書き起こしは重労働
- “研究”の意味
“研究”は、よく調べて史実や道理を知ること。

私が考える未来の聾史研究

- ・ 30～40年後
- ・ これからの近聾史研の取組み

30～40年後は？

- 現在、近聾史研は岐路に立っている
- 近聾史研は継続か？解散？
研究活動せず、情報交換のみグループの場合、人材が育たず、若手の研究者が不在の場合は解散の恐れ。
- 関西地域に聾史関連団体の結成？
“近畿聾史学会”に変更？

近畿聾史学会

京都

兵庫

奈良

大阪

支部ではなく、各団体は独立した団体

これから近聾史研の取組み

- 後世に引き継ぐために
- 書籍刊行
 - ①『ベルと日本の聾教育 来日講演記録より』（仮称）
 - ②『新聞記事から見た聾啞者』（仮称）
 - ③『聾史レポート集 第2集』
- 会員のレベルアップとPR
聾史レポートの提出を心がける
聴覚障害者協会機関紙に「聾史」を掲載する。

京都ろうあニュース「京の聾史探訪」

11月20日発行 京都ろうあニュース (平成22年11月22日発行) 編集者兼発行人 No.414

山奥の寺に送り出された皇女

光瑞寺の皇女 美姫

光瑞寺の皇女 美姫

光瑞寺の皇女 美姫

光瑞寺の皇女 美姫

光瑞寺の皇女 美姫

光瑞寺の皇女 美姫

光瑞寺の皇女 美姫

光瑞寺の皇女 美姫

光瑞寺の皇女 美姫

光瑞寺の皇女 美姫

11月20日発行 京都ろうあニュース (平成22年11月22日発行) 編集者兼発行人 No.414

砂浜に山水 独学精み米洛

藤原 山山

藤原 山山

藤原 山山

藤原 山山



藤原 山山

藤原 山山

藤原 山山

11月20日発行 京都ろうあニュース (平成22年11月22日発行) 編集者兼発行人 No.414

70名の昭妓たちが 京都盲聾院に入院したことを検証

盲聾院に入院した昭妓

盲聾院に入院した昭妓

盲聾院に入院した昭妓

盲聾院に入院した昭妓



盲聾院に入院した昭妓

盲聾院に入院した昭妓

盲聾院に入院した昭妓

2008年6月号から
連載中
今年12月号で29回目

光瑞寺の皇女 美姫

光瑞寺の皇女 美姫

光瑞寺の皇女 美姫

まとめ 聾史研究グループのポイント

聾史研究グループのポイント

- 結成は2人から
 - ①団体活動に経験がある
 - ②聾史研究に熱心(足で調査する)
 - ①+②=グループ結成
- 知識の共有化
“見る”“知る”“調べる”
会議中、つまらないから別の話をする ⇒×

完

ご静聴していただき
ありがとうございました。